

# 牛乳・乳製品



## ◆飼養動向

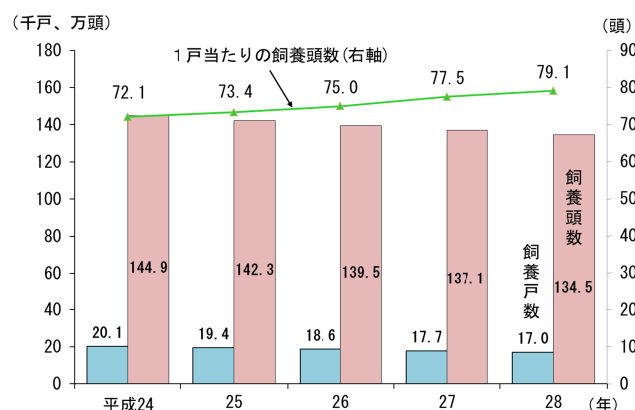
### 28年2月現在の乳用牛飼養頭数、1.9%減少

乳用牛の飼養頭数は、近年減少傾向で推移しており、平成28年2月には134万5000頭(前年比1.9%減)と、前年をわずかに下回った。

飼養戸数は、後継者不足に加え、高齢化などによる廃業から、平成28年には前年を700戸下回る1万7000戸(同4.0%減)と、やや減少した。

この結果、同年の1戸当たり飼養頭数は、前年をわずかに上回る79.1頭(同1.6頭増)となった(図1)。

図1 乳用牛の飼養戸数および頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注：各年2月1日現在。なお、28年は概算値。

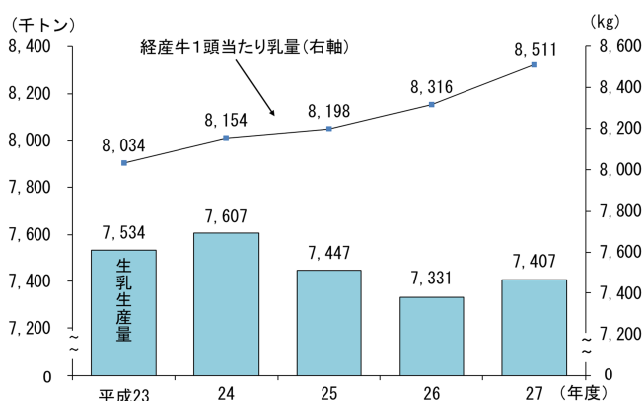
## ◆生乳生産量

### 27年度の生乳生産量、1.0%増加

生乳生産量は、平成8年度の約870万トンピークに、都府県における減少により、減少傾向で推移してきた。平成24年度は生産の回復がみられ、760万7400トン(前年度比1.0%増)とわずかに増加し、7年ぶりに前年度を上回ったが、平成25年度以降、再び減少に転じた。平成27年度は1頭当たり乳量の増加などから、3年ぶりに増加となった(同1.0%増)。

一方、経産牛1頭当たり乳量を見ると、27年度は8511キログラム(同2.3%増)と、4年連続で増加した(図2)。

図2 生乳生産量および経産牛1頭当たり乳量(全国)



資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」および「牛乳乳製品統計」

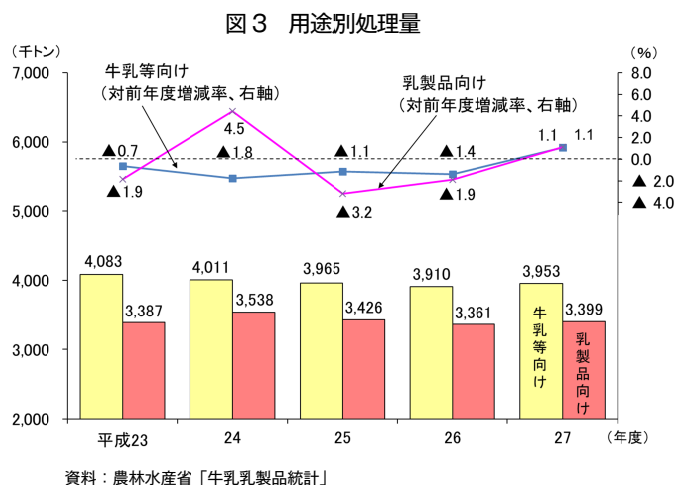
注：27年度の経産牛1頭当たり乳量は概算値。

## ◆牛乳等向け処理量

### 27年度の牛乳等向け処理量、1.1%増

生乳の牛乳等向け処理量は、消費動向を反映して推移しているが、近年は少子高齢化やその他飲料との競合などから消費が伸び悩んでおり、平成6年度をピークに減少傾向にある。平成26年度は、消費税率の引き上げ（5%から8%へ）などから、391万200トン（同1.4%減）と12年連続で減少したものの、27年度は牛乳生産量が4年ぶりに増加したことなどから、395万3200トン（同1.1%増）と増加に転じた（図3）。

また、国内生産量のうち、牛乳等向け処理量の割合（市乳化率）は、53.4%と、前年度より0.1ポイント高くなった。

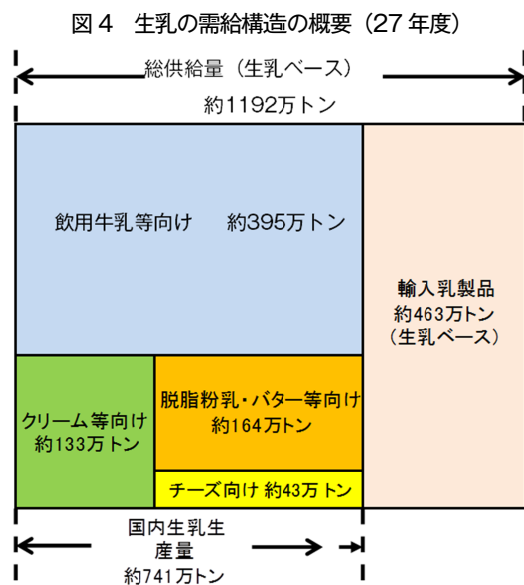


## ◆乳製品向け処理量

### 27年度の乳製品向け処理量、1.1%増加

生乳生産量が減少する中、乳製品向け処理量は、平成24年度に353万8100トン（前年度比4.5%増）と3年ぶりに前年度を上回った。平成25年度は生乳生産の減少を受け342万5600トン（同3.2%減）、平成26年度は336万1200トン（同1.9%減）と2年連続で前年度を下回った。平成27年度は生乳生産量の増加により、339万8500トン（同1.1%増）と前年度を上回った（図3）。乳製品向け処理量のうち、クリーム等向け処理量は、コンビニエンスストア向けデザート類などの需要の伸びが落ち着いたことから、133万トンとなった。

この結果、同年度の総供給量は、国内生乳生産が約741万トン、輸入乳製品（生乳ベース）が約463万トンとなった（図4）。



資料：農林水産省「畜産をめぐる情勢」

注1：四捨五入の関係で、必ずしも計が一致しないことがある。

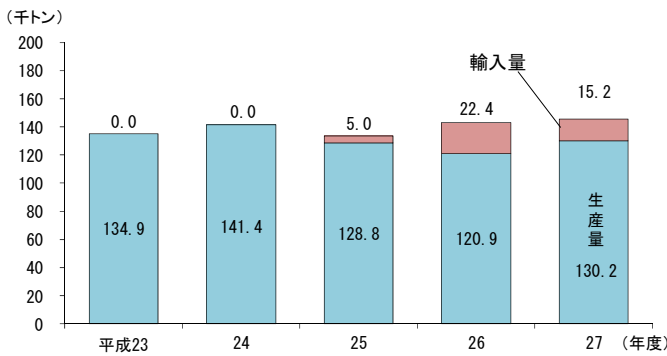
注2：国内生乳生産量の中には、このほか自家消費などに仕向けられたものがある。

## ◆脱脂粉乳

### 27年度末在庫量は10.6%増、大口需要者価格は上昇

平成27年度の脱脂粉乳の生産量は、生乳生産量が増加し、特定乳製品向けのうち、脱脂粉乳・バター等向けの生乳処理量が増えたことなどから、13万184トン（前年度比7.7%増）と3年ぶりに前年度を上回った（図5）。

図5 脱脂粉乳の生産量・輸入量

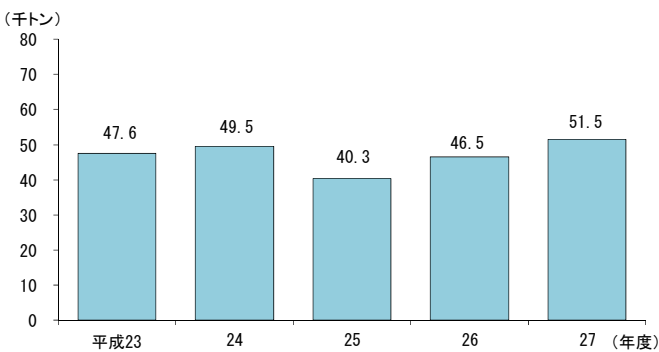


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」  
注：輸入量は機構輸入分のみ。

平成27年度の推定出回り量は、生産が増加したものの、増加分は乳業メーカーの在庫積み増しに向けられたことから13万6200トン（同1.6%減）と前年をやや下回った。

この結果、同年度の期末在庫量は、生乳生産量の増加による脱脂粉乳の増産により、5万1500トン（同10.6%増）と平成22年度以来の5万トン台となった（図6）。

図6 脱脂粉乳の期末在庫量

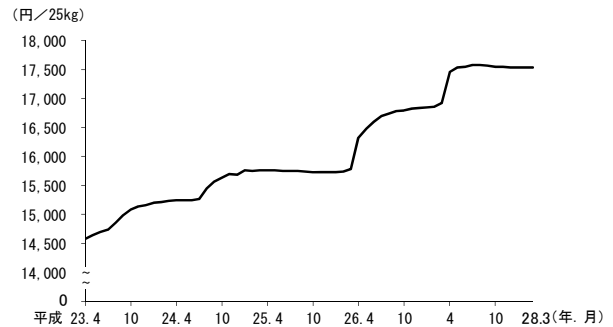


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

脱脂粉乳の大口需要者価格は、平成23年度以降、配合飼料価格の上昇に伴う加工原料乳価の引き上げなどのコスト増により上昇傾向で推移し、ひっ迫した需給状況となった平成26年度は、25キログラム当たり平均1万6725円（前年度比6.2%高）となり、平成27年度も、堅調なはち餅乳需要などを背景に同1万7543円（同4.9%高）となった（図7）。

なお、こうした需給動向を受け、機構は平成27年度のカレントアクセス分の脱脂粉乳5000トンに加え、追加輸入分として1万トンの輸入契約を締結した。

図7 脱脂粉乳の大口需要者価格



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」  
注：消費税を含む。

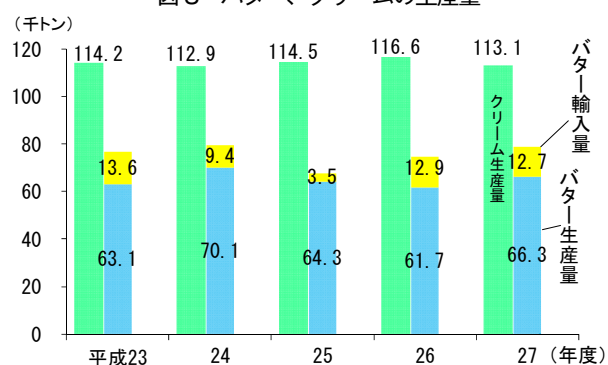
## ◆バター・クリーム

### バターの27年度末在庫量は23.6%増加、大口需要者価格は上昇

平成27年度のバターの生産量は、生乳生産量が増加し、特定乳製品向けのうち、脱脂粉乳・バター等向け生乳仕向け量が増えたことなどから、6万6300トン（前年度比7.5%増）とかなりの程度増加した。

同年度のクリームの生産量は、コンビニエンスストア向けデザート類などの需要が一服したことから、11万3100トン（同2.6%減）となった（図8）。

図8 バター、クリームの生産量

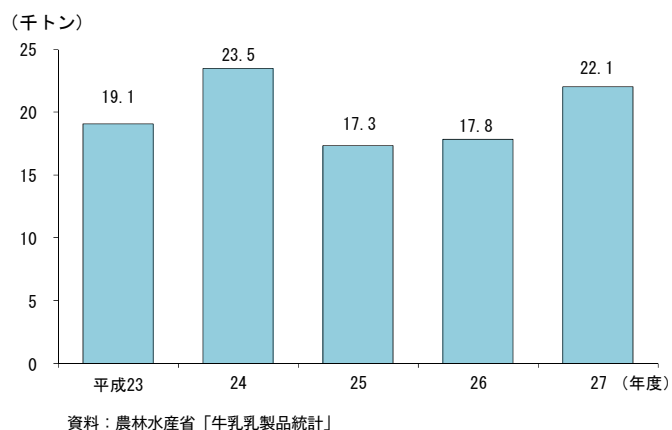


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

平成27年度の推定出回り量は、生産量や輸入量の増加により供給量が改善されたことにより、7万5210トン（同1.1%増）と、前年度と比べわずかに増加した。

また、期末在庫量は、生産量の増加などにより2万2100トン（同23.6%増）と大幅に増加した（図9）。

図9 バターの期末在庫量

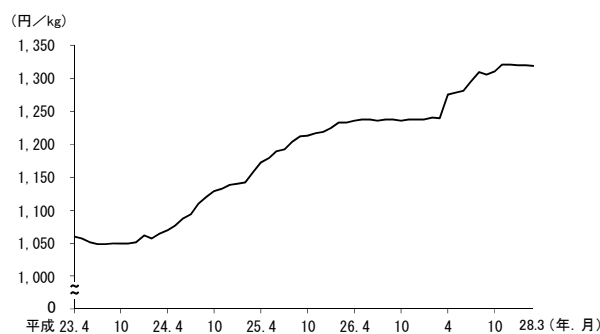


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

バターの大口需要者価格は、低い在庫水準や、配合飼料価格の上昇に伴う加工原料乳価の引き上げなどのコスト増から平成23年度に上昇に転じて以降、堅調に推移している。平成27年度は、1キログラム当たり平均1369円（同4.9%高）と前年度からさらに上昇した（図10）。

なお、こうした需給動向を受け、機構は平成27年度のカレントアクセス分のバター2800トンに加え、追加輸入分として1万トンの輸入契約を締結した。

図10 バターの大口需要者価格



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」

注：消費税を含む。

## ◆チーズ

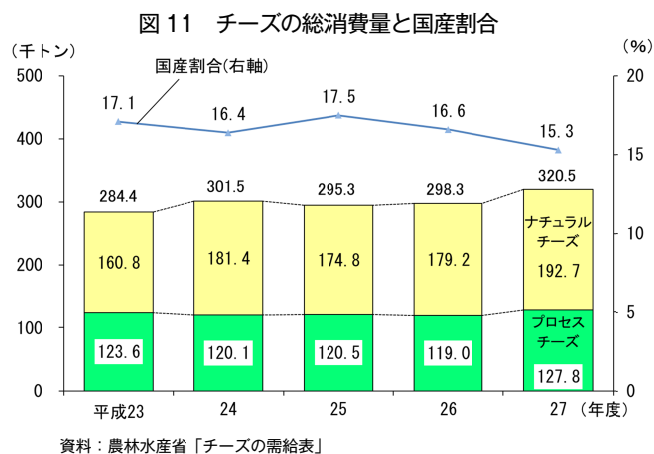
### 27年度の総消費量、7.5%増加

#### チーズの総消費量の推移

チーズの総消費量は、消費者の根強い需要や中食化の進展により、おおむね増加傾向で推移している。

平成27年度の国産ナチュラルチーズ生産量は、4万6000トン（前年度比1.9%減）とわずかに減少したものの、直接消費用ナチュラルチーズ消費量は19万2700トン（同7.5%増）とかなりの程度増加した。

また、プロセスチーズ消費量は12万7800トン（同7.4%増）と増加となり、ナチュラルチーズとプロセスチーズを合わせた総消費量は32万500トン（同7.5%増）と、前年度をかなりの程度上回った（図11）。

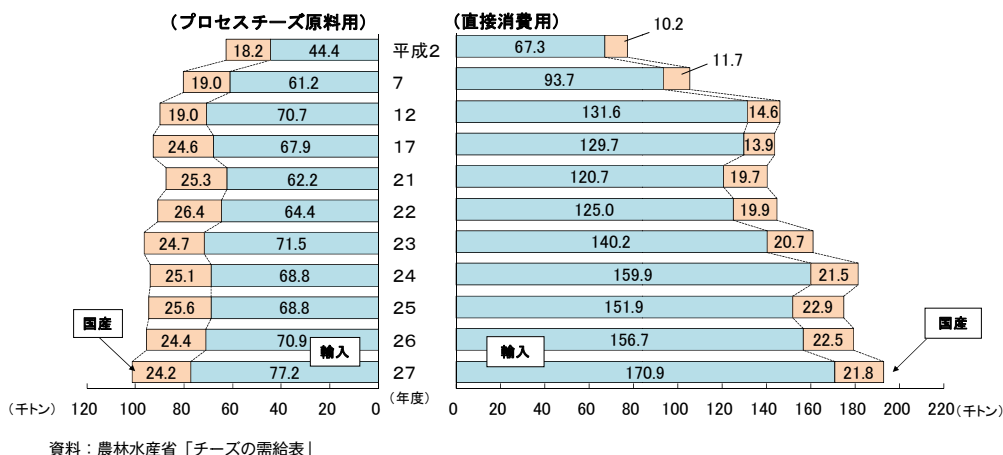


#### ナチュラルチーズの生産量・輸入量

平成27年度のナチュラルチーズの輸入量（プロセスチーズ原料用+直接消費用）は、24万8054トン（同9.0%増）とかなりの程度増加し、過去最高となった。

内訳を見ると、プロセスチーズ原料用は、7万7187トン（同8.8%増）、直接消費用は、17万867トン（同9.0%増）と共にかかなりの程度、増加した（図12）。

図12 ナチュラルチーズの生産量・輸入量



国産ナチュラルチーズの生産量（プロセスチーズ原料用+直接消費用）は、需要の拡大を背景に堅調に推移している。

平成27年度は、特定乳製品向けのうちチーズ向け生乳処理量が減少したことから、4万6000トン（同1.9

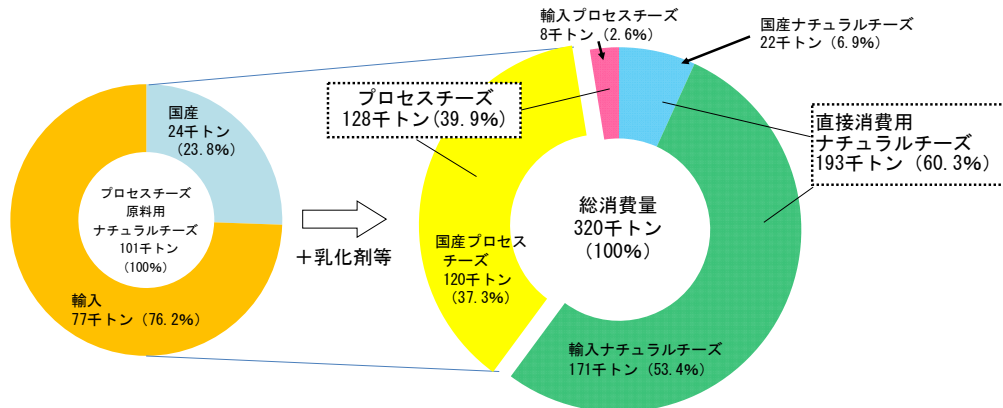
%減）となった。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用が2万4200トン（同0.7%減）とわずかに減少し、直接消費用も2万1800トン（同3.1%減）と共に減少した。

## チーズ総消費量の内訳

平成27年度のチーズ総消費量に占める国産チーズの割合は、国内生産量が減少した一方輸入チーズが増加したことから15.3%となり、前年度より1.3ポイント低下した。

また、プロセスチーズ原料用のナチュラルチーズに占める国産の割合も、23.8%と1.8ポイント低下した(図13)。

図13 27年度のチーズ総消費量の内訳



資料：農林水産省「チーズの需給表」

注：直接消費用ナチュラルチーズとは、プロセスチーズ原料用以外のものを指し業務用その他原料用を含む。

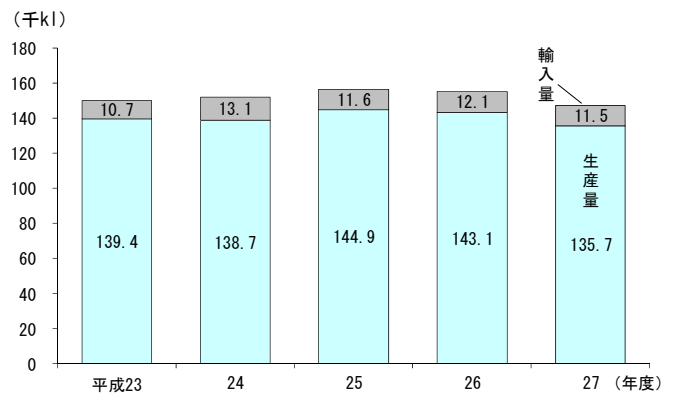
## ◆アイスクリーム

### 27年度の生産量、5.2%減少

アイスクリームは、近年、豊富な品揃えなどにより、消費者の購買頻度が高まっていたが、平成27年度の実生産量は、最需要期の夏季がそれほど暑くならなかったことなどから、需要が鈍化し13万5700キロリットル(前年度比5.2%減)と減少した。

また、同年度の輸入量は、最需要期の夏季が冷夏になり需要が鈍化したことなどから1万1500キロリットル(同10.4%減)と大幅に減少となった(図14)。

図14 アイスクリームの生産量および輸入量



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、財務省「貿易統計」

注：輸入量は、1トン=1.455klで換算。